

沙魚の甘露養

一合は冬の酒で十尾ばかりの沙魚を半日間も煮つめて夫から砂糖と醬油で味をつけ、どろどろになつた時、葛粉をうすく解いて入れ、ば沙魚は柔軟に煮られてまことに香ばしい甘い甘露養となりて頭も骨もたべられます、お正月の御肴には至極妙です。

兒育草

養和堂主人誌

一 小兒は生れたるときより重き病にかゝるものなりそは産婆の取扱方によること多ければ教育ある産婆に取り擧げさする様すべし無教育の産婆は母子に危険なるものはあらず

一 小兒生るれば直ちに母乳を與へて害なし乳の出でざる間は薄き砂糖湯を飲ましむべし生母の初乳は緩

和の通痢劑となるなり「まくり」などは用ゐるに及ばず

一 胎毒として世人の想像する如きものはなし、よしありとするも下劑にて除き得るものにあらず妄に下すは大害あり

一 小兒の頭髪を剃去らざれば「上せ」を病むと思ふは誤りなり剃らざるも決してさることなし頭髪は第一寒氣を防ぎ第二日光の直射を防ぎ又不意に頭を打ちなせしたるときは受傷を防ぐ故に頭髪は頭腦天然の保護器なり剃去るの悪しきは言ふまでもなし

一 湯浴は小兒の衛生に必要なり哺乳兒は毎日浴せしむるを好とす頭部を石鹼にて丁寧に洗ふべし

一 小兒を養ふには生母の乳に勝るものなし母乳をさづくるには初生一二月の間は二乃至三時間ごとに一度三四月以後は三時間毎に一度與へ晝夜にて六乃至八

九回と定め吸ひ止むを待ちて乳房をはなすべし夜間
はなるべく與へざるを良とす時間を定めず乳房を合
ましむれば必ず飲み過ぎて腸胃病を起すべし

一 小兒生れて既に七八月に至れば母乳と共に水にて薄
めたる牛乳(稀め方)、肉羹汁、米飲又はよく養たる稀
糊に卵黄を混して與ふべし

一 一歳を越ゆれば母乳のみにては營養に不足なるのみ
ならず母體の爲めにも良しからず一年の終のころ
より次第に母乳を減じ牛乳を増し齒の生へるに従ひ

柔らか食物を與へ二年の中頃遅くも二年の終には全
く母乳を止めて與へざるを良とす
一 母乳の性質悪しきか、不量不足なるか、いづれにても

小兒の發育よからぬときは母乳を止めて他の乳を與
ふべしこれには乳母の乳を最も良とす次には牛乳次
には煉乳(コンデンスドミルク)なり

一 乳母を撰ぶには其道に詳しき醫師をして身體並に乳
汁を検査せしめ然る後に定め決して妄に採用すべか
らず

一 生牛乳を與へんには新鮮なる乳を煮沸し之れに一度
わかしたる水と少許の砂糖とを加へ好きはどに温
めて用ふべし水の割合は生後一ヶ月内は乳一水三、

二ヶ月より三ヶ月は乳一水二、四ヶ月より六ヶ月は
乳、水各等分七ヶ月より八ヶ月は乳二水一、九ヶ
月以上は純粹の牛乳を用ひて妨なし砂糖の分量は一

合の乳に普通の小匙一杯とす(但し水の割合等病兒
は此の限にわらず醫師の指揮に従ふべし)

一 煉乳は其種類數多し中にて鷹印小石川東京、岩瀨牛印福
縣岩瀨御料地製造人、日本一桃太郎印小石川區掃部町、
順宜農場製造、龜印不明、日本一桃太郎印間島藩之助製造
と優等の品とす用法は初め乳一水十の割合に溶し漸
次水を減じ乳一水四乃至五の割合とすべし其他前項

生牛乳の用法に倣ふべし

一 小兒の衣服は軽くして暖さをよしとす生後一二ヶ月の間は廣袖とし四五ヶ月となりて手にて物を握る様なればゆるき筒袖とすべし初生兒は痛く寒を厭ふものなれば厚着をよろしとすれども總て厚着にすぎて汗ばむは反て感冒の基となるなり

一 衣服に就きて尤も注意すべきは附紐の附所なり普通一の仕立方にては餘り高すぎて胸を縮く、り紐の當る所くびれて胸の發育を妨げ肺心臟の力を弱むるものなり子ある人は吾子の衣服に就きて試み見よ直ちに其理由を會得すべし故に附紐は胸をよけ腹をしむる様下げて附け腰巻「しめし」等をしむるにも胸部をよけてすべし

一 小兒はなるべく背負ざる様すべし胸を壓し足を縛るは大に身體の發育を妨ぐるなり戶外に出だすには抱

くか又は乳母車を用ふべし

一 子守とて十歳にも足らざる少女に愛兒を托する人あり是れ不安心の至なり此等の子供が如何に小兒を取扱ふかは筆者の言をまたずして知られぬべし小兒はなるべく手慣たる老婆に托する事こそ望しけれ

一 小兒は日中はなるべく戶外にて遊ばしむるを良とすれども日暮よりは外出せしめず早く眠に就かしむる様慣すべし

一 母乳の善悪は直様小兒の身體にさしひやくものなれば醫師より不良と認められて斷乳を命せらるれば其言に従ふべし

一 虫とて俗間に云ふ如き病なし疳の虫驚風の虫など皆妄誕の説なり尤も腸内には蛔虫繞虫等の虫生ずれども皆歳たけ乳の外に飲食物を取るときに生ず乳のみにて養はるゝ小兒には決してさることなし故に「虫

封しとて灸又は祈禱なぞするは害あるとも益なしと知るべし

一疳とは廣く民間に知られたる小兒病の名なり暴狂拗哭夜中安眠せざる等の状態を指して疳又は虫と云ふされどもかゝる病あるにあらず多くは身體に不快の所あるか又は育方の良からざるよりかゝる癖のつきたるなり故に又疳は多く病後に發す病中機嫌を取りすぎて甘やかせしためなり

一種痘は小兒に尤も大切なる事柄なり痘瘡流行時には年の稚さを嫌はされども平時は生れて百日に至れば必ず種痘し其後三四年目に一度づゝすれば安全なりされども身體の摸様によりては種痘の爲め反て他の病を引き出すことあるが故に可成前以て小兒科醫の診察を受け然る後にするをよしとす

一病は十中八九不養生より來る特に小兒の病に於て然

り小兒はもと無智無識なれば自らなせる不養生は皆保育者の不行届に由らずんばならず芋、豆、菓物、香の物杯不消化物を多食して劇烈の腸胃加答兒を起し夜具を蹴はなし裸體のまゝ、布団の外に轉出して急激の感冒症に罹るの類是れなり母たる者吾子の健全を願はゞ平生尤もそが寢食に注意せよ

一小兒を育てる事易き様にて實は易からず母たる人は縦ひ乳母を備ふ場合にても常に小兒の狀況に注意し少しにても常に變ることあらば早く醫師の診察を受くべし小兒の病は癒ゆるも早ければ重るも早しと知るべし

一小兒の身體器管の狀況は大人と同じからず從て病の性質經過等も異なる所あり此れ小兒科學とて内科學より分れて一専門學の出來たるゆゑなり故に小兒の病は小兒科専門の醫師に診療を托するにしかず

一以上の條々は筆者十數年來の實驗により省煩摘要小兒を養育する人の爲めに日々の心得方の大要を記ししなり世の育兒者之れに由りて違ふことなくんば庶幾くは愛兒の成育を全うせん

子供は鏡なり

林 ふ み

鏡は、色々のもの、かけをうつししますが、子供もまた、自分に接する人々のかけをうつす一つの鏡であります。

一體、子供のまねをするといふのは、本性ですから自分のそばにある人々の通りするものであります。これが、大人ならば、善惡のわきまへがありますから、たとひそばでして見せられても、よくないと思へばまねません。けれども子供はまだ善惡のわきまへがあり

ません。其上色々の事を知らうとして居りますから何でもまねをするのであります。いくら大人でも、善惡のわからぬ事は、子供のやうにまねすることがあります。例へばこゝに一人の洋食のたべ方を知らぬ人が、よく知つて居る人々とふしよに洋食をたべるとしませう、そうすると、其人は何もかも向ふの人々のする通りにして、事によれば、其人々のしくじりまでもまねるかもしれない、大人でさへかうでありますから、まして、何もわからぬ子供が、まねするのは尤であります。

それ故、もし子供によくない行儀などのあるのを見ましても決してむやみに叱ることは出来ません。よく省みて常にこの子供に見せて居る手本は、どうであるかといふことを考へることが、大切であります。さうすれば、どこかに其手本のあることを知りませう。